

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176700540		
法人名	有限会社 そうせい舎		
事業所名	グループホーム あったか宝来館		
所在地	稚内市宝来2丁目2-19		
自己評価作成日	H30年8月17日	評価結果市町村受理日	平成30年9月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_2017_022_kani=true&JirvosvoCd=0176700540-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成30年9月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の人や利用者さんご家族、なにより職員が「あったか宝来館」なら入所したいと思えるようなグループホームでありたいと日々研鑽しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年7月宝来地区に開設された1ユニット(定員:8名)の改装型の認知症対応型共同生活介護(グループホーム)です。開設当初より宝来地区の人々との交流に取り組み、地域の認知度が高く、協力体制を構築していたが2019年春には、大黒に新築移転が決められています。事業所の持つ専門性を活かして、地元高校生の介護実習や医療機関の看護師の実習の受け入れをしており、地域との交流や連携に取り組んでいる。また、緊急時に備えて町内の津波避難訓練への参加や地域の避難訓練への参加、保育園児の慰問を受けたり、町内会行事への参加・協力など利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現行理念は職員個々の介護への思いを集約した物であり共有し日々の実践につなげている	職員個々の思いを反映した理念をつくり上げ、その理念を共有して実践につなげている。また、勤続年数の永い職員が多く在籍しており、利用者本位のケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は「あったかさ」と呼ばれ地域の人々と日常的に交流している。老朽化のため来春には宝来地区より移転する事となったが関係を継続すべく考えている	町内の津波避難訓練への参加や地域の避難訓練への参加、保育園児の慰問を受けたり、町内会行事への参加・協力など、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体事業所で開催されるオレンジカフェや認知症にかんする研修、集いを紹介している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	規定回数に至っていないが開催時には活動資料をもとに報告し意見交換をしている	運営推進会議の開催では、検討項目もあるが現況報告や活動内容、実地指導の結果等の具体的内容について話し合っている。来春には、宝来地区からの新築移転になるので地域の方の理解を得る活動を検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	便りや通信で事業所の待機者などの実情や日々のケアの様子などを伝えている。市からのリーフレット等は家族だけではなく地域の方へも配布している	市担当者とは、事業所の実情を報告したり、地域ケア会議への参加等で情報交換を行い、協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上夜間は施錠している。身体拘束をしないケアについて社内研修を行っている	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為をミーティングや内部研修会開催等で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の高齢者虐待対応マニュアルの新規改定に協力している。虐待防止についての社内研修も行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援や後見制度について学ぶ機会が少なく職員間での理解度は充分とは言えない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定等の際は十分な説明をして家族が納得した上で署名、押印していただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特にそうした場を設けてはいないが利用者さんとは日々の会話のなかで、ご家族とは面会時や訪問時に意見や要望を伺う様になっている	来訪時に意向や要望等を言い表せる機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。また、毎月、家族への家庭訪問や来訪時に日常生活の様子や健康状態等の情報を提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月のミーティングや年度末研修時に運営状況、方針を説明し意見提案を受ける場としている	毎月のミーティングや個人面談の実施等で職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇消化の推奨、資格修得のための援助などを行いやりがいや向上心を持って働ける様努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度末に次年度社内研修の日程を発表し職員が参加予定を立て易いよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホーム部会への参加を促し同業者とのネットワークづくりや交流を通して職員のケアの向上に努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ほとんどの方がなじみの人や場所から離れて暮らす事への不安を感じている。職員は親しまれ、信頼されるような関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には当事業所の理念やケアの実際をお話しし安心して頂けるように努めている。実現可能な要望にはすぐに対応する様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め介護計画に反映させている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をしていく上での工夫や知恵を教えて頂いたりしながら共にここでの暮らしを作り上げている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の困り事や相談事はご家族にお伝えしている。職員だけで対応しきれない場合ご家族と共に解決にあたっている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所期間が長くなればなじみの場所への思いは薄れてしまう。毎月「家族への手紙」を送出し近況をお伝えしている事で遠方の家族や知人が会いに来られる事がある	保育園児との交流や町内会のお祭り参加、地域の祭典への参加などで馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の悪い利用者さんは別テーブルにしてみたりと色々工夫しています。今は全員がお互いの顔をみながら食事や団らんでできるようにテーブルを合わせ円卓風にしていきます		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何年経ってもご家族は親しく声をかけて下さいます思い出話や近況報告で特に相談を受けたことはありません		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向が事業所の現在では実現不可能なものであってもそれに近づく様な代替え策を模索するように努めている	日常の引き継ぎノートの活用やミーティングで一人ひとりの希望や意向の把握に努め、職員間で情報を共有し、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族、関係機関から聞き取りをしている。本人からは入所後一緒に生活する中で会話や活動を通して馴染の暮らし方や生活歴を知る様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各記録表、連絡ノートを駆使し一人ひとりの現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度モニタリングを行っている。介護計画期間中であっても特別な事があれば家族等と話し合い計画の見直し、変更を行っている	本人・家族の意向や要望、医師及び看護師からの指導や助言、毎月のモニタリングを通じて職員の見解やアイデアを反映し、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤から日勤、日勤から夜勤へと毎日朝タミニカンファレンスを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の困り事の相談には一緒に解決策を探し出せる様努めている。本人の近親者の葬儀には送迎をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の祭りに参加したり幼保園児の慰問を楽しんでいる。市立病院の看護師、介護課程の高校生の実習を受け入れている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	終末期には対応出来る医院、病院への転院をお願いしている	訪問看護の利用や通院への支援、日常の健康管理で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日が訪問看護なので1週間の状態をまとめ看護師に伝えている。急変時には連絡しいつでも適切な助言、看護を受けられる態勢が出来ている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期に亘る入院でも担当医と話し退院の見込みがある場合は契約を継続し居室を確保し安心して治療に専念できるようにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族には終末期の指針を文書と口頭で説明しご理解していただいている	早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながらチームで支援に取り組んでいる。また、ターミナルケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習会を行いスタッフの参加を義務づけている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を昼夜帯で実施している。地区の津波災害避難訓練に参加している	緊急時に備えて町内の津波避難訓練への参加や地域の避難訓練への参加、昼夜を想定した事業所の避難訓練を実施している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室は利用者さんの家との理解のもと声を掛け許可を得て立ち入るようにしている。重度化しようと個々の尊厳を支えるケアを行っている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように、ミーティングでの話し合いや内部研修会開催等で職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	指示したり決めつけたりせず自己決定出来るように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日常業務に追われる中でも職員は利用者さんが暮らしの主体である事を思い本人本位の暮らしが送れる様努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣、外出時の化粧等個々に見合った整容支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食を利用しているがたまに外食や外での焼肉、季節の献立を利用者さんと作り楽しんでいる。日常的に配膳、下膳食器片付けと一緒にやっている	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や片付けをしたり、時には外食や出前など食事が楽しみなものになるよう工夫している。また、水分・食事摂取量、摂取カロリーを把握している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事、水分量表をもとに栄養や水分が確保出来るよう声かけしている。極端に少ない場合には経口栄養剤や補水液で補っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は食事後の歯磨きが習慣化されている。出来ない方へは職員が口腔ケアブラシを使いケアしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し適時声かけ誘導している。夜間ポーターやオムツを使用している方もいるが日中は全員がトイレでの排泄が出来る	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄表で把握し、誘導や声かけ等でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬については個々の症状にあわせ医師と相談しながら変更や増減をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	1週2回は入浴出来るようにしているが本人の気分などもあり無理強いはいしていない。夜勤帯での入浴は職員が一人なのでしていない	週2回の入浴を目安に一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後や前夜眠れていない様な時は昼間の休息がとれる様声かけしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの状態で顆粒にしたりゼリーと合わせたりして服薬して頂いている。精神科の薬については症状等こまめに担当医に報告し指示を仰いでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	受診時にはドライブや買い物をするようにしている誕生日が同じでも合同にせず個々が好きな所へ出かけられるよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員参加の外出はサポートスタッフを頼み出かけている。日常的に戸外へ出る事はごく近隣の散歩や物干しに出るぐらいで、それも特定の方に限られてしまっている	重度化と共に外周の機会は限られてきているが、散歩や買い物、地域の行事参加など戸外へ出かけられるよう支援している。また、保育園児の慰問や高校生や看護師の実習の受け入れ等で交流の機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	たまに買い物に出かけてもレジは職員が行っている基本的に利用者さんのお金は事務所で預かり毎月出納簿をご家族に確認して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員が番号を押し相手先に挨拶してから本人に渡している。職員は退室し気兼ねなくお話できる様配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お風呂の時間は洗面所が使えずトイレも1ヶ所になり利用者さん同士の譲り合いに助けられてこれまでやってこられている。古く手狭な建物だがアットホームな雰囲気作りに努めている	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間は、季節ごとの飾り付けやテーブルや椅子の配置などで生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル配置を色々考え利用者さんの居場所の工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	傍目には雑然としている様に見えても本人なりに居心地良く過ごせているなら良としている。ただ毎日の掃除などで衛生面での問題が生じない様に努めている	居室には、家具や日用品等の馴染みの品々が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使う利用者さんが増えてきているが増設する余地もなく職員の見守りで安全な生活が保たれている		

目標達成計画

グループホームあつたか宝来館

作成日：平成 30年 9月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	8	建物の老朽化により移転する事となった。グループホームなので昼間に全員の引っ越しを終えその夕には新建屋での生活が始まる	利用者さんの混乱や事故がなく手際良く安全に移転出来る	利用者さん、家族へ事前説明を十分し納得、理解を得ておく。新建屋視察会を設ける。綿密な引っ越し計画を立てる	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。